

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 6 月 2 0 日
Date of Application:

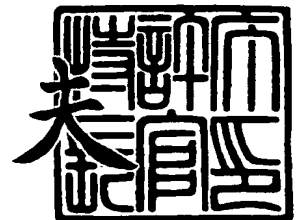
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 7 6 6 0 8
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 1 7 6 6 0 8]

出 願 人 芝 浦 メ カ ト ロ ニ ク ス 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 2 月 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



【書類名】 特許願

【整理番号】 A000302857

【提出日】 平成15年 6月20日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G09F 9/00

【発明の名称】 静電吸着方法、静電吸着装置及び貼り合せ装置

【請求項の数】 11

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市栄区笠間二丁目 5 番 1 号 芝浦メカトロ
 ニクス株式会社横浜事業所内

 【氏名】 石見 宗憲

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市栄区笠間二丁目 5 番 1 号 芝浦メカトロ
 ニクス株式会社横浜事業所内

 【氏名】 栗山 昇

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市栄区笠間二丁目 5 番 1 号 芝浦メカトロ
 ニクス株式会社横浜事業所内

 【氏名】 武石 浩司

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県海老名市東柏ヶ谷 5 丁目 1 4 番 1 号 芝浦メカ
 トロニクス株式会社さがみ野事業所内

 【氏名】 早藤 育生

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県海老名市東柏ヶ谷 5 丁目 1 4 番 1 号 芝浦メカ
 トロニクス株式会社さがみ野事業所内

 【氏名】 増田 浩一

【特許出願人】

【識別番号】 000002428

【氏名又は名称】 芝浦メカトロニクス株式会社

【代理人】

【識別番号】 100058479

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴江 武彦

【電話番号】 03-3502-3181

【選任した代理人】

【識別番号】 100091351

【弁理士】

【氏名又は名称】 河野 哲

【選任した代理人】

【識別番号】 100088683

【弁理士】

【氏名又は名称】 中村 誠

【選任した代理人】

【識別番号】 100084618

【弁理士】

【氏名又は名称】 村松 貞男

【選任した代理人】

【識別番号】 100092196

【弁理士】

【氏名又は名称】 橋本 良郎

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2002-352710

【出願日】 平成14年12月 4日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011567

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9116897

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 静電吸着方法、静電吸着装置及び貼り合せ装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 誘電体からなるテーブルに設けられた電極に直流電圧を印加し、それによって発生する静電気力で上記テーブルの保持面に基板を吸着保持する静電吸着方法において、

上記電極に所定の極性の電圧を印加して上記保持面に上記電極に印加された極性と異なる極性の電荷を帯電させる第 1 の工程と、

上記保持面に上記基板を保持する第 2 の工程と、

上記保持面に基板を保持した状態で上記電極に上記第 1 の工程で印加した極性と異なる極性の電圧を印加し上記テーブルの上記保持面に上記第 1 の工程でこの保持面に帯電させた電荷と同じ極性の電荷を生じさせ、この電荷と上記第 1 の工程で上記保持面に帯電させた電荷とで上記基板を吸着保持する第 3 の工程と、

を具備したことを特徴とする静電吸着方法。

【請求項 2】 上記第 1 の工程は圧力雰囲気下で行われ、この圧力雰囲気には荷電粒子が存在することを特徴とする請求項 1 記載の静電吸着方法。

【請求項 3】 上記圧力雰囲気には水蒸気と酸素の少なくとも一方が存在することを特徴とする請求項 2 記載の静電吸着方法。

【請求項 4】 上記第 3 の工程は 8 0 k P a 以下の圧力雰囲気で行うことを特徴とする請求項 1 記載の静電吸着方法。

【請求項 5】 上記第 3 の工程において上記電極に電圧を印加する前に、この電極をアースして電極に蓄えられた電荷を放電させるアース工程を有することを特徴とする請求項 1 記載の静電吸着方法。

【請求項 6】 基板を吸着保持する静電吸着装置において、

誘電体によって形成され上記基板を静電気力によって保持する保持面を有するテーブルと、

このテーブルに設けられた電極と、

この電極に直流電圧を印加する直流電源と、

この直流電源によって上記電極に印加される直流電圧の極性を切換える切換え

手段とを具備し、

上記電極に所定の極性の直流電圧を印加してから上記保持面に上記基板を保持した後、上記切り換え手段を操作して上記電極に異なる極性の直流電圧を印加することを特徴とする静電吸着装置。

【請求項 7】 上記テーブルはチャンバ内に設けられ、このチャンバの内部空間は減圧手段によって減圧可能であることを特徴とする請求項 6 記載の静電吸着装置。

【請求項 8】 上記チャンバには、この内部空間に荷電粒子を供給する荷電粒子供給手段が接続されていることを特徴とする請求項 6 記載の静電吸着装置。

【請求項 9】 2 枚の基板間に流体を介在させ、これら基板をシール剤によって貼り合わせる貼り合せ装置において、

内部空間が減圧可能なチャンバと、

上記チャンバ内に対向して設けられ互いの対向する面にそれぞれ基板を保持する保持面を有するとともに少なくとも一方が誘電体によって形成された一对のテーブルと、

誘電体によって形成されたテーブルに設けられた電極と、

この電極に直流電圧を印加しそのテーブルの保持面に上記基板を保持する静電気力を発生させる直流電源と、

この直流電源によって上記電極に印加される直流電圧の極性を変換する切換え手段と、

一对のテーブルを相対的に上下方向及び水平方向に駆動し一对のテーブルの保持面にそれぞれ保持された基板の水平方向の位置合せをしてからこれら基板を貼り合わせる駆動手段とを具備し、

上記電極に所定の極性の直流電圧を印加してから上記保持面に上記基板を保持した後、上記切り換え手段を操作して上記電極に異なる極性の直流電圧を印加することを特徴とする貼り合せ装置。

【請求項 1 0】 上記電極に異なる極性の直流電圧を印加する前に、上記電極に蓄えられた電荷を放電させるアース装置を備えていることを特徴とする請求項 9 記載の貼り合せ装置。

【請求項 1 1】 上記保持面にはガス導入源に連通した開孔が形成されていることを特徴とする請求項 9 記載の貼り合せ装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

この発明は基板をテーブルに静電気力によって吸着保持する静電吸着方法、静電吸着装置及びこの静電吸着装置を用いて 2 枚の基板を貼り合わせる貼り合せ装置に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

液晶ディスプレイパネルに代表されるフラットディスプレイパネルなどの製造工程では、2 枚の基板を所定の間隔で対向させ、これら基板間に流体としての液晶を封入してシール剤によって貼り合わせる、貼り合せ作業が行なわれる。

【0 0 0 3】

上記貼り合せ作業は、2 枚の基板のどちらかに上記シール剤を枠状に塗布し、その基板或いは他方の基板の上記シール剤の枠内に対応する部分に所定量の上記液晶を滴下供給する。

【0 0 0 4】

つぎに、上記 2 枚の基板を上部保持テーブルと下部保持テーブルとに保持し、上下方向に所定の間隔で離間させて対向させ、その状態でこれら基板の水平方向である X、Y 及び θ 方向の位置決めを行い、ついで一方の基板を下方へ駆動してこれら基板を貼り合わせる。

【0 0 0 5】

基板の貼り合せはチャンバ内で、この内部空間を減圧して行われる。それによって、貼り合せ後にチャンバ内に気体を導入して圧力を上昇させれば、貼り合された一対の基板間の圧力と、チャンバ内の圧力との差圧によって貼り合された一対の基板を、貼り合せ荷重よりも十分に大きな荷重で加圧することができる。

【0 0 0 6】

チャンバ内で 2 枚の基板を貼り合わせる場合、基板を上記一対のテーブルに真

空吸着すると、チャンバ内が減圧されることで基板の保持力が喪失されてしまう。そのため、上部保持テーブルに保持された基板が落下したり、2枚の基板を接触させて位置合せする際、基板がテーブル上でずれ動いてしまうということがある。

【0 0 0 7】

そこで、一对の保持テーブルのうち、少なくとも上部保持テーブルには電極を設け、この電極に直流電圧を印加する。それによって、上記保持テーブルの保持面に静電気力が発生するから、その静電気力によって基板を吸着保持するということが行われている。

【0 0 0 8】

基板を静電気力によって保持テーブルに吸着保持する場合、その保持力は上記電極に印加する直流電圧の大きさに依存することになる。上述したように、液晶ディスプレイパネルの一对の基板を貼り合わせる場合、保持テーブルに保持された基板がずれ動くのを抑制するために静電気力を増大させるには、上記電極に印加する直流電圧としては十キロボルトを超える高電圧の印加が要求されることがある。

【0 0 0 9】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、電極に十キロボルトを超える高電圧を印加すると、保持テーブルやチャンバ内での放電による絶縁破壊が発生し、保持テーブルの損傷を招いたり、電極への電荷の蓄積不足を招いて保持テーブルに大きな静電気力を発生させることができなくなるなどのことがあった。

【0 0 1 0】

この発明は、電極に高電圧を印加しなくとも、テーブルに生じる静電気力を増大させることができるようにした静電吸着方法、静電吸着装置及び貼り合せ装置を提供することにある。

【0 0 1 1】

【課題を解決するための手段】

この発明は、誘電体からなるテーブルに設けられた電極に直流電圧を印加し、

それによって発生する静電気力で上記テーブルの保持面に基板を吸着保持する静電吸着方法において、

上記電極に所定の極性の電圧を印加して上記保持面に上記電極に印加された極性と異なる極性の電荷を帯電させる第1の工程と、

上記保持面に上記基板を保持する第2の工程と、

上記保持面に基板を保持した状態で上記電極に上記第1の工程で印加した極性と異なる極性の電圧を印加し上記テーブルの上記保持面に上記第1の工程でこの保持面に帯電させた電荷と同じ極性の電荷を生じさせ、この電荷と上記第1の工程で上記保持面に帯電させた電荷とで上記基板を吸着保持する第3の工程と、

を具備したことを特徴とする静電吸着方法にある。

【0012】

上記第1の工程は圧力雰囲気下で行われ、この圧力雰囲気には水蒸気と酸素の少なくとも一方が存在することが好ましい。

【0013】

上記第3の工程は80kPa以下の圧力雰囲気で行うことが好ましい。

【0014】

上記第3の工程において上記電極に電圧を印加する前に、この電極をアースして電極に蓄えられた電荷を放電させるアース工程を有することが好ましい。

【0015】

この発明は、基板を吸着保持する静電吸着装置において、
誘電体によって形成され上記基板を静電気力によって保持する保持面を有するテーブルと、

このテーブルに設けられた電極と、

この電極に直流電圧を印加する直流電源と、

この直流電源によって上記電極に印加される直流電圧の極性を切換える切換え手段とを具備し、

上記電極に所定の極性の直流電圧を印加してから上記保持面に上記基板を保持した後、上記切換え手段を操作して上記電極に異なる極性の直流電圧を印加することを特徴とする静電吸着装置にある。

【0016】

上記テーブルはチャンバ内に設けられ、このチャンバの内部空間は減圧手段によって減圧可能であることが好ましい。

【0017】

上記チャンバには、この内部空間に荷電粒子を供給する荷電粒子供給手段が接続されていることが好ましい。

【0018】

この発明は、2枚の基板間に流体を介在させ、これら基板をシール剤によって貼り合わせる貼り合せ装置において、

内部空間が減圧可能なチャンバと、

上記チャンバ内に対向して設けられ互いの対向する面にそれぞれ基板を保持する保持面を有するとともに少なくとも一方が誘電体によって形成された一对のテーブルと、

誘電体によって形成されたテーブルに設けられた電極と、

この電極に直流電圧を印加しそのテーブルの保持面に上記基板を保持する静電気力を発生させる直流電源と、

この直流電源によって上記電極に印加される直流電圧の極性を変換する切換え手段と、

一对のテーブルを相対的に上下方向及び水平方向に駆動し一对のテーブルの保持面にそれぞれ保持された基板の水平方向の位置合せをしてからこれら基板を貼り合わせる駆動手段とを具備し、

上記電極に所定の極性の直流電圧を印加してから上記保持面に上記基板を接触させて保持した後、上記切り換え手段を操作して上記電極に異なる極性の直流電圧を印加することを特徴とする貼り合せ装置にある。

【0019】

上記電極に異なる極性の直流電圧を印加する前に、上記電極に蓄えられた電荷を放電させるアース装置を備えていることが好ましい。

【0020】

上記保持面にはガス導入源に連通した開孔が形成されていることが好ましい。

【 0 0 2 1 】

この発明によれば、テーブルの保持面に所定の極性の電荷を帯電させた後、その電荷の消失を防止してさらに同じ極性の電荷を帯電させるため、上記保持面に帯電する電荷量が増大し、それに応じて保持面に生じる静電気力も大きくなる。

【 0 0 2 2 】**【発明の実施の形態】**

以下、図面を参照しながらこの発明の一実施の形態を説明する。

【 0 0 2 3 】

図 1 はこの発明の一実施の形態に係る貼り合せ装置で、この貼り合せ装置にはこの発明の静電吸着装置が用いられている。すなわち、上記貼り合せ装置はチャンバ 1 を備えている。このチャンバ 1 は気密に接続可能な下部チャンバ 2 と上部チャンバ 3 とに分割されている。

【 0 0 2 4 】

上記下部チャンバ 2 には下部保持テーブル 4 が第 1 の駆動源 5 によって X、Y、 θ 方向、つまり水平方向に駆動可能に設けられている。この下部保持テーブル 4 の上面である、保持面 4 a には液晶ディスプレイパネルを構成するガラス製や樹脂製の第 1、第 2 の基板 7、8 のうちの第 1 の基板 7 が供給載置される。

【 0 0 2 5 】

上記保持面 4 a には、たとえば所定の摩擦抵抗を有する弾性シート（図示せず）が設けられている。上記第 1 の基板 7 は、この弾性シートとの接触抵抗によって上記保持面 4 a 上に水平方向に移動不能に保持される。保持面 4 a に保持された上記第 1 の基板 7 の上面には、シール剤 9 が矩形枠状に塗布されているとともに、この枠内には流体である液滴状の液晶 1 0 が行列状に滴下供給されている。

【 0 0 2 6 】

上記下部チャンバ 2 には、減圧手段としての第 1 の真空ポンプ 1 2 が接続されている。この第 1 の真空ポンプ 1 2 は、下部チャンバ 2 に上部チャンバ 3 が後述するごとく気密に接続された状態で、これらがなすチャンバ 1 の内部空間を減圧する。減圧されたチャンバ 1 内の圧力は上記下部チャンバ 2 に接続された圧力計 1 3 で測定される。さらに、下部チャンバ 2 には 2 枚の基板 7、8 を貼り合せた

後にチャンバ1内に気体を供給する給気管14が接続されている。この給気管14には図示しない開閉制御弁が設けられている。

【0027】

上記上部チャンバ3には、その上部壁に取付け体15が気密に貫通して設けられている。この取付け体15には可動軸16が移動可能に挿通され、この可動軸16の上記上部チャンバ3内に突出した下端には上部保持テーブル18が設けられている。

【0028】

上記上部保持テーブル18は、ポリイミドやセラミックスなどの誘電体によって所定の厚さを有する板状に形成されていて、厚さ方向中途部には対をなす第1の電極19と第2の電極20とが埋設されている。これら電極19, 20には後述するように直流電圧が印加され、それによって生じる静電気力で上記上部保持テーブル18の下面の保持面18aに上記第2の基板8を吸着保持するようになっている。

【0029】

なお、上記上部保持テーブル18には吸引孔21が一端を保持面18aに開口して形成されている。吸引孔21の他端は第2の真空ポンプ22及び不図示の加圧ガス供給源が切換え可能に接続されている。この第2の真空ポンプ22が作動することで、上記吸引孔21に吸引力を発生させることができる。したがって、上部保持テーブル18の保持面18aには上記第2の基板8を真空吸着力によって吸着保持することもできる。

【0030】

また、加圧ガス供給源に切換え、開孔である吸引孔21からガスを噴出させると、噴出されたガスの圧力で吸着保持された基板8を保持面18aから離脱させることができる。

【0031】

上記取付け体15の上記上部チャンバ3の上面側に突出した上端には、上記可動軸16をZ方向である、上下方向に駆動するとともに、上部チャンバ3とは別に上部保持テーブル18だけを上下駆動することが可能な第2の駆動源23が設

けられている。この第2の駆動源23は第3の駆動源24によって上記上部チャンバ3とともにZ方向に駆動されるようになっている。第3の駆動源24によって上部チャンバ3を下降方向に駆動すると、その下端面が上記下部チャンバ2の封止材25が設けられた上端面に気密に当接する。それによって、チャンバ1内を気密に閉塞する。

【0032】

上記上部チャンバ3には荷電粒子供給手段としてのイオナイザ26が接続されている。このイオナイザ26は、上部保持テーブル18の保持面18aに向けて荷電粒子を含む気体を吹き付けることができるようになっている。

【0033】

図2に示すように、上記第1の電極19と第2の電極20とは、電源部27に設けられた第1の直流電源28と第2の直流電源29とが切換え装置31とアース装置32を介して接続される。上記切換え装置31は第1の極性切換え部33と第2の極性切換え部34とを有する。

【0034】

各極性切換え部33, 34は、図3に示すようにそれぞれ第1、第2の切換えスイッチ33a, 33b, 34a, 34bを有し、これら切換えスイッチを切換え操作することで、第1、第2の電極19, 20に印加する直流電圧の極性を切換えることができるようになっている。

【0035】

上記アース装置32は上記第1の極性切換え部33に接続された第1のアース切換え部37と、上記第2の極性切換え部34に接続された第2のアース切換え部38とを有する。第1のアース切換え部37は上記上部保持テーブル18に設けられた第1の電極19に切換えスイッチ37aを介して接続され、上記第2のアース切換え部38は第2の電極20に切換えスイッチ38aを介して接続されている。

【0036】

上記第1、第2の極性切換え部33, 34及び上記第1、第2のアース切換え部37, 38の各切換えスイッチは制御手段としての制御装置39によって切換

え操作することができるようになっている。すなわち、上記第1の極性切換え部33と第2の極性切換え部34との第1、第2のスイッチ33a, 33b, 34a, 34bが図3に示すように切換え操作される前は、上記第1の直流電源28の陽極電圧が第1の極性切換え部33と第1のアース切換え部37を通じて第1の電極19に印加される。同じく、上記第2の直流電源29の陰極電圧は、第2の極性切換え部34と第2のアース切換え部38を通じて第2の電極20に印加される。

【0037】

制御装置39によって上記第1の極性切換え部33と第2の極性切換え部34との第1、第2のスイッチ33a, 33b, 34a, 34bが図5に示すように切換え操作されると、上記第1の電極19には上記第2の直流電源29の陰極電圧が印加され、上記第2の電極20には上記第1の直流電源28の陽極電圧が印加される。

【0038】

上記制御装置39によって上記アース装置32の第1のアース切換え部37の切換えスイッチ37aと第2のアース切換え部38の切換えスイッチ38aとが図2に実線で示す状態から鎖線で示す状態に切換え操作されると、第1の電極19と第2の電極20とがアースされる。それによって、これら電極19, 20に蓄えられた電荷が放電されることになる。

【0039】

つぎに、上記構成の貼り合せ装置によって第1の基板7と第2の基板8とを貼り合わせる手順を図3乃至図5を参照して説明する。

【0040】

まず、第1の工程では、下部チャンバ2と上部チャンバ3とが離間した状態で、シール剤9が塗布されているとともに液晶10が滴下された第1の基板7を下部保持テーブル4に供給載置したならば、図3に示すように切換え装置31の第1、第2の極性切換え部33, 34の第1の切換えスイッチ33a, 34aをオンにし、第2の切換えスイッチ33b, 34bはオフ状態を維持する。それによって、第1の直流電源28の陽極電圧を上部保持テーブル18に設けられた第1

の電極 19 に印加し、第 2 の直流電源 29 の陰極電圧を第 2 の電極 20 に印加する。

【0041】

第 1、第 2 の電極 19, 20 が設けられた上部保持テーブル 18 は大気に開放されている。そのため、第 1、第 2 の電極 19, 20 にそれぞれ所定の極性の電圧を印加すると、大気中に存在する気体成分の分極現象や瞬間的な電離現象によって荷電粒子が発生し、その荷電粒子が上部保持テーブル 18 の保持面 18a に帯電したり、大気中の水分が分極して帯電する。

【0042】

具体的には、図 3 に示すように、上部保持テーブル 18 の保持面 18 の第 1 の電極 19 に対応する部分には、第 1 の電極 19 に印加された直流電圧の極性と逆の極性の陰極電荷 $-E_1$ が帯電し、保持面 18 の第 2 の電極 20 に対応する部分には第 2 の電極 20 に印加された直流電圧の極性と逆の極性の陽極電荷 $+E_1$ が帯電する。このとき、上部保持テーブル 18 の第 1、第 2 の電極 19, 20 と保持面 18a の間の部分は同図に示すように陰極と陽極とが分極した状態になる。

【0043】

なお、上部保持テーブル 18 に帯電させる際、下部チャンバ 2 と上部チャンバ 3 とを閉じ、チャンバ 1 内を大気圧以上の圧力を含む 10 Pa 以上の圧力雰囲気としてもよい。 10 Pa 以上の圧力であれば、その圧力雰囲気中に存在する気体成分の分極現象や瞬間的な電離現象によって荷電粒子を発生させて保持面 18a に電荷を帯電させることが可能である。なお、チャンバ 1 内の圧力が 10 Pa 以下であっても、保持面 18a に電荷を帯電させることは可能である。また、大気圧以上の圧力であっても、電圧の印加によって電離現象が生じるから、帯電可能である。

【0044】

チャンバ 1 内を 10 Pa 以上の圧力とする場合、その圧力を 10 Pa 以上の圧力範囲内で変動させれば、放電が発生し易い圧力雰囲気を必ず生じさせることができるから、放電による荷電粒子を効率よく発生させることができる。

【0045】

上記上部チャンバ3にはイオナイザ26が接続されているから、このイオナイザ26から荷電粒子を含む気体を下部保持テーブル18に向けて噴射することによっても、上記保持面18aに電荷を効率よく帯電させることができる。

【0046】

また、チャンバ1内を水蒸気や酸素を含む雰囲気とすることによっても、良好な分極現象や電離現象を得ることができる。チャンバ1内を水蒸気や酸素を含む雰囲気とする場合、イオナイザ26に代えて水蒸気発生装置や酸素供給装置を用いてチャンバ1に水蒸気や酸素を積極的に供給するようにしてもよい。

【0047】

上記上部保持テーブル18に上述したように電荷を帯電させたならば、つぎの第2の工程では、図4に示すように上部保持テーブル18の保持面18aに第2の基板8を真空吸着によって保持する。それによって、上記保持面18aに帯電された電荷が消失するのが阻止されることになる。

【0048】

つまり、保持面18aとチャンバ1などの周辺の導体との間で放電が生じると、その放電によって保持面18aの電荷が消失するが、上記保持面18aに絶縁体である基板8を保持することによって、保持面18aとチャンバ1などの周辺の導体との間で放電が生じて電荷が消失するのを防止できる。

【0049】

保持面18aに第2の基板8を保持しても、この保持面18aに帯電した電荷 $-E_1$ 、 $+E_1$ と、保持面18aと各電極19、20との間で分極された電荷のうち、保持面18a側に位置する電荷との極性が異なるから、これらの極性の異なる電荷が互いに引き合う。そのため、保持面18aには電荷による吸引力がほとんど生じない。そのため、保持面18aに帯電した電荷による第2の基板8の保持力は極めて小さい。したがって、第2の基板8は、第2の真空ポンプ22による真空吸引力によって保持面18aに保持するようにする。

【0050】

なお、上部保持テーブル18に帯電させる第1の工程を、チャンバ1を密閉し

て10Pa以上の圧力雰囲気下で行う場合、第2の基板8をチャンバ1内に予め供給しておけば、第2の工程ではチャンバ1を開放せずに上部保持テーブル18に保持させることができる。その場合、チャンバ1内には、このチャンバ1内に予め供給された第2の基板8を上記チャンバ1内に保持するとともに保持面18aに電荷を帯電させた後、その保持面18aに上記第2の基板8を供給保持させるための供給保持手段を設ける必要がある。

【0051】

第2の基板8を保持面18aに真空吸着する代わりに、上記供給保持手段を用いて第2の基板8を保持面18aに接触させた状態で保持するようにしてもよい。

【0052】

第2の工程で、第2の基板8をチャンバ1の外部から供給する場合には、チャンバ1を開放してロボットなどの供給手段で上記上部保持テーブル18の保持面18aに供給すればよい。

【0053】

第2の基板8を上部保持テーブル18の保持面18aに供給する際、第1の電極19と第2の電極20とはそれぞれ陽極電圧と陰極電圧とを印加し続けてもよく、遮断してもよい。直流電圧を印加し続ける際の電圧値は、電荷を帯電させるときの電圧値と同じであっても異なってもよく、要は各電極に印加する極性を変えなければよい。

【0054】

保持面18aに第2の基板8を保持したならば、制御装置39によってアース装置32の第1、第2のアース切換え部37、38の切換えスイッチ37a、38aを図2に実線で示す状態から鎖線で示す状態に切換え、第1の電極19と第2の電極20とをそれぞれ所定時間だけアースする、アース工程を行う。それによって、図3に示すように、第1の電極19に蓄えられた陽極の電荷と、第2の電極20に蓄えられた陰極の電荷とがそれぞれ放電されるから、これら電極19、20は電荷が蓄えられていない状態になる。

【0055】

各電極 19, 20 のアースが遮断されたならば、図 5 に示す第 3 の工程を行う。この第 3 の工程は、切換え装置 31 の第 1 の極性切換え部 33 と、第 2 の極性切換え部 34 との第 1 の切換えスイッチ 33a, 34a をオフにし、第 2 の切換えスイッチ 33b, 34b をオンにする。それによって、第 1 の電極 19 には第 2 の直流電源 29 の陰極電圧が印加され、第 2 の電極 20 には第 1 の直流電源 28 の陽極電圧が印加される。つまり、第 3 の工程では、第 1、第 2 の電極 19, 20 に印加される直流電圧の極性が逆になる。

【0056】

各電極 19, 20 に印加する直流電圧の極性を切換え、第 1 の電極 19 に陰極の電圧を印加すると、上部保持テーブル 18 の第 1 の電極 19 と保持面 18a との間の部分には、第 1 の電極 19 側が陽極で、保持面 18a 側が陰極となる分極が生じる。この分極によって生じた保持面 18a 側に生じる電荷 $-E_2$ の極性と、予め保持面 18a に帯電保持された電荷 $-E_1$ との極性は同じ陰極になる。

【0057】

一方、第 1、第 2 の電極 19, 20 間への電圧の印加によって第 2 の基板 8 には誘電分極が生じ、第 2 の基板 8 の第 1 の電極 19 に対応する部分は保持面 18a に面した上面が陽極で、下面が陰極の分極となるから、両方の陰極電荷 $-E_1$ 、 $-E_2$ の作用によって第 2 の基板 8 の第 1 の電極 19 に対応する部分が吸着保持される。

【0058】

同様に、第 2 の電極 20 に陽極の電圧が印加されると、上部保持テーブル 18 の第 2 の電極 20 と保持面 18a との間の部分には、第 2 の電極 20 側が陰極で、保持面 18a 側が陽極となる分極が生じる。この分極によって生じた保持面 18a 側に生じた極性の電荷 $+E_2$ と、予め保持面 18a の第 2 の電極 20 に対応する部分に帯電保持された電荷 $+E_1$ との極性が同じ陽極になる。

【0059】

一方、第 1、第 2 の電極 19, 20 間への電圧の印加によって第 2 の基板 8 には誘電分極が生じ、第 2 の基板 8 の第 2 の電極 20 に対応する部分は保持面 1

8aに面した上面が陰極で、下面が陽極の分極となるから、両方の陽極電荷 $+E_1$ 、 $+E_2$ の作用によって第2の基板8の第2の電極20に対応する部分を吸着保持する。

【0060】

つまり、第2の基板8は、単に保持面18aに第2の基板8を保持して直流電圧を印加する場合に比べ、第1の工程で保持面18aに予め電荷 $-E_1$ 、 $+E_1$ を帯電させた分だけ、強い保持力で上記保持面18aに吸着保持することができる。換言すれば、第1、第2の電極19、20に印加する直流電圧を高くしなくとも、保持面18aに大きな静電気力を発生させることができる。

【0061】

第3の工程において、各電極19、20へ印加する直流電圧の極性を切換える際、チャンバ1内を80kPa以下の圧力にしてから行うことが好ましい。チャンバ1内の圧力を80kPa以下にして各電極19、20への印加極性を切換えるようにすれば、切換え時に保持面18aと第2の基板8との間に隙間があっても、この隙間で放電が発生するのを防止することができる。それによって、第1の工程で保持面18aに帯電され、第2の工程で第2の基板8によって保持された電荷 $-E_1$ 、 $+E_1$ が放電によって緩和されるのを防止できる。

【0062】

なお、保持面18aに帯電した電荷が多少緩和されるのを許容すれば、各電極19、20へ印加する直流電圧の極性の切換えは80kPa以上の圧力の雰囲気内で行うようにしてもよい。また、第3の工程によって第2の基板8が保持された後は、真空ポンプ22による真空吸着を停止しても差し支えない。

【0063】

第3の工程は、第1の工程で電極19、20に帯電した電荷を放電してから、第1の工程と異なる極性の電圧を印加して行う。そのため、各電極19、20には、第1の工程で帯電された極性と異なる極性の電荷を、効率よく迅速に蓄えることができる。

【0064】

このようにして、上部保持テーブル18の保持面18aに第2の基板8を保持

したならば、第 1 の駆動源 5 によって下部保持テーブル 4 に保持された第 1 の基板 7 を水平方向に駆動して上記第 2 の基板 8 と位置合せする。ついで、第 2 の駆動源 2 3 によって上部保持テーブル 1 8 を下降方向に駆動し、所定の荷重で第 2 の基板 8 を第 1 の基板 7 にシール剤 9 によって貼り合わせる。

【 0 0 6 5 】

貼り合わせが終了したならば、給気管 1 4 からチャンバ 1 内に気体を導入し、チャンバ 1 内の圧力を上昇させる。それによって、一对の基板 7, 8 間の圧力とチャンバ 1 内の圧力との差圧によって貼り合された第 1 の基板 7 と第 2 の基板 8 とが貼り合せ時よりも大きな圧力で加圧されるから、これら基板 7, 8 の間隔が所定の値に設定される。

【 0 0 6 6 】

その後、吸引孔 2 1 を加圧ガス供給源に連通させ、吸引孔 2 1 からガスを噴出させて上部保持テーブル 1 8 を上昇させることで、保持面 1 8 a から第 2 の基板 8 を離脱させることができる。

【 0 0 6 7 】

上記吸引孔 2 1 からガスを噴出させることで、第 2 の基板 8 が保持面 1 8 a から離間させられるため、スイッチ 3 3 b, 3 4 b をオフにした後に保持面 1 8 a に電荷が残存していたとしても、基板 8 を保持面 1 8 a から容易かつ確実に離脱させることが可能となる。その後、チャンバ 1 を開いて貼り合された第 1、第 2 の基板 7, 8 を取り出すことで、貼り合わせが終了する。

【 0 0 6 8 】

貼り合された第 1、第 2 の基板 7, 8 をチャンバ 1 から取り出す前、つまり貼り合わせが終了して上部保持テーブル 1 8 から第 2 の基板 8 が離れた時点で、上述したように上部保持テーブル 1 8 の第 1、第 2 の電極 1 9, 2 0 にそれぞれ所定の極性の直流電圧を印加し、その保持面 1 8 a に電荷を帯電させる第 1 の工程を開始するようにしてもよい。それによって、貼り合わせに要するタクトタイムを短縮することができる。

【 0 0 6 9 】

なお、タクトタイムを短縮する場合、貼り合された一对の基板が上部保持テ-

ブル 1 8 から離れた時点で、第 1 の工程を開始する場合だけに限られず、少なくとも貼り合わされた基板がテーブル 1 8 から離れた時点から次の第 1 の基板 7 が下部保持テーブル 4 に供給されるまでの間に第 1 の工程を開始すればよい。つまり、第 1 の工程を、貼り合された基板の搬出動作など他の動作と並行して行うようにすれば、基板 7 が下部保持テーブル 4 に供給された後に第 1 の工程を行う場合に比べてタクトタイムを短縮することができる。

【 0 0 7 0 】

この発明は上記一実施の形態に限定されるものでなく、たとえば下部保持テーブルにも電極を設け、この電極によって上部保持テーブルと同様に基板を静電気力で保持する構成としてもよい。

【 0 0 7 1 】

上部保持テーブルには一対の電極を設けるようにしたが、複数対の電極を設けるようにしてもよく、或いは電極を 1 つだけ設けるようにしてもよく、下部電極にも電極を設ける場合には、上部電極と同様、少なくとも 1 つの電極が設けられていればよい。

【 0 0 7 2 】

第 1 の工程と第 3 の工程とにおいて、第 1 の電極と第 2 の電極に印加する直流電圧の極性を切換える手段は、制御装置によって自動で行ってもよいが、制御装置を用いずに手動で行うようにしてもよい。

【 0 0 7 3 】

チャンバ 1 を下部チャンバと上部チャンバとに分割したが、側壁に基板の出し入れ口を備えた箱形状のチャンバであってもよい。

【 0 0 7 4 】

【発明の効果】

以上のようにこの発明は、保持テーブルの保持面に予め所定の極性の電荷を帯電させて保持してから、上記保持面にさらに同じ極性の電荷を帯電させるようにした。

【 0 0 7 5 】

そのため、上記保持面に帯電する同じ極性の電荷を増大させることができるか

ら、基板を上記保持面に保持するための静電気力を、電極に印加する電圧を高くせずに、増大させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

この発明の一実施の形態に係る貼り合せ装置の概略的構成図。

【図 2】

電極に所定の極性の直流電圧を印加するための制御回路図。

【図 3】

上部保持テーブルの保持面に所定の極性の電荷を帯電させる第 1 の工程の説明図。

【図 4】

所定の極性の電荷が帯電された保持面に基板を保持する第 2 の工程の説明図。

【図 5】

電極に印加する直流電圧の極性を逆の極性に切換える第 3 の工程の説明図。

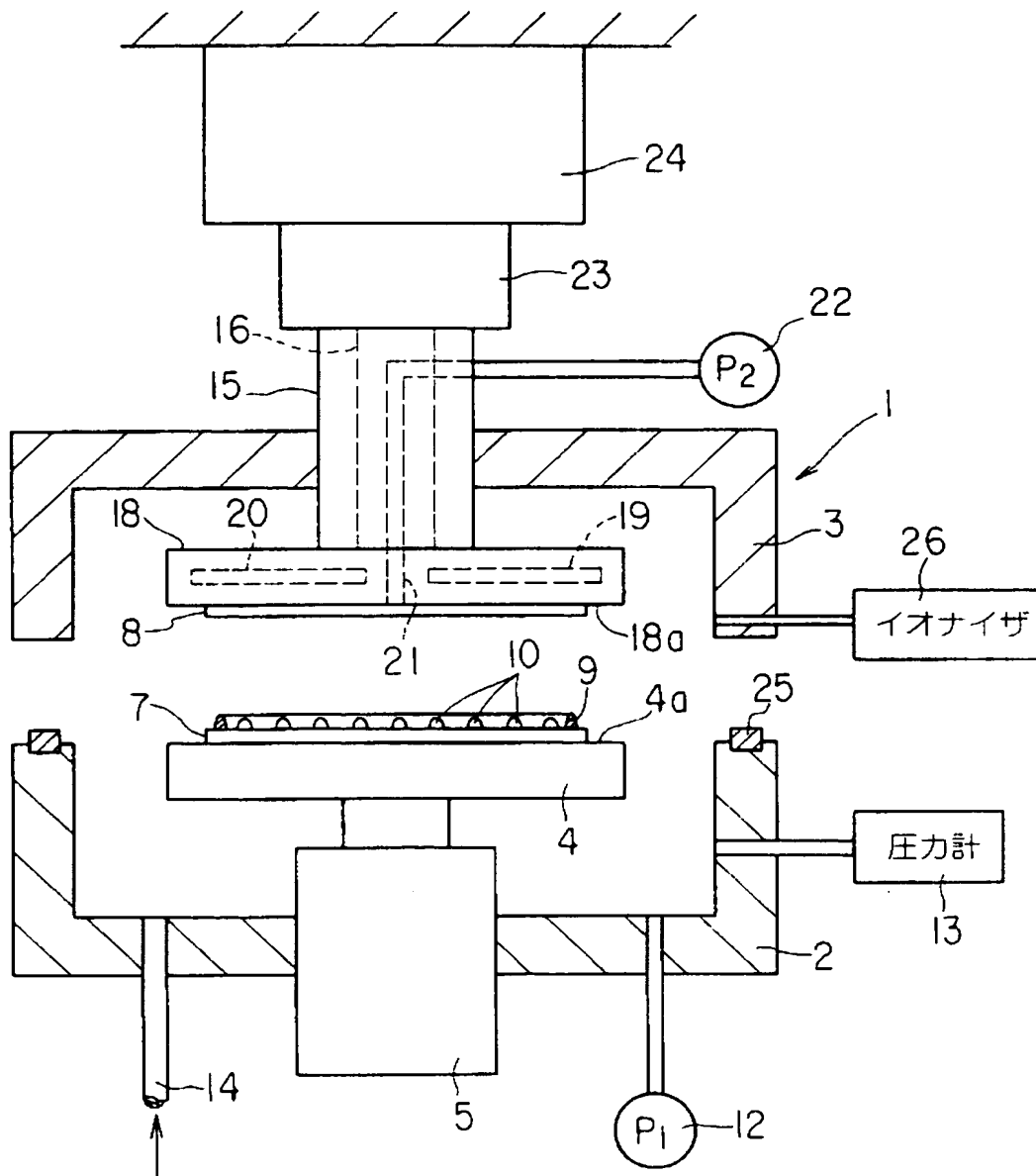
【符号の説明】

- 1…チャンバ
- 4…下部保持テーブル
- 7…第 1 の基板
- 8…第 2 の基板
- 12…第 1 の真空ポンプ（減圧手段）
- 18…上部保持テーブル
- 19…第 1 の電極
- 20…第 2 の電極
- 26…イオナイザ（荷電粒子供給手段）
- 28…第 1 の直流電源
- 29…第 2 の直流電源
- 31…切換え装置（切換え手段）
- 39…制御装置（制御手段）

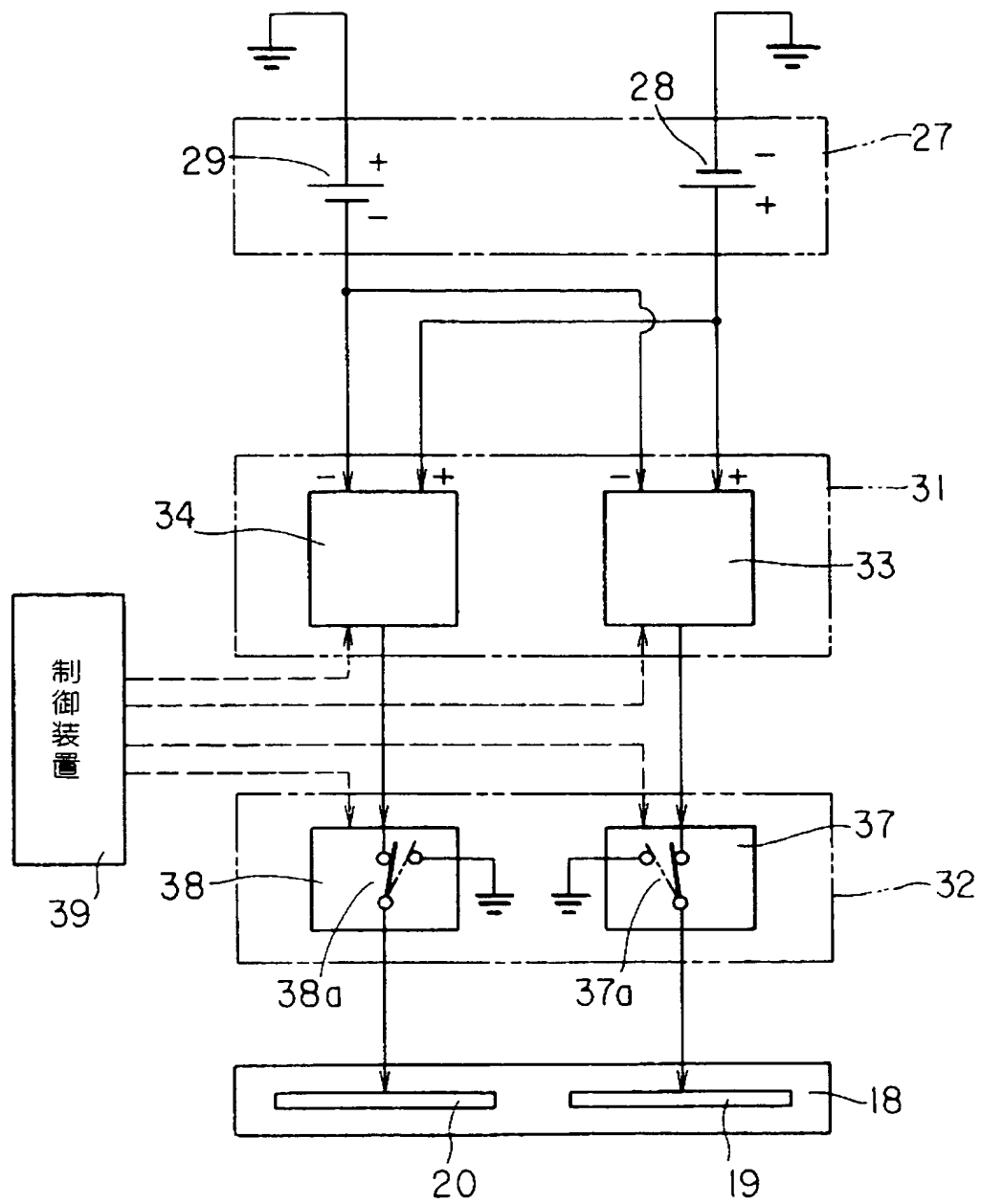
【書類名】

図面

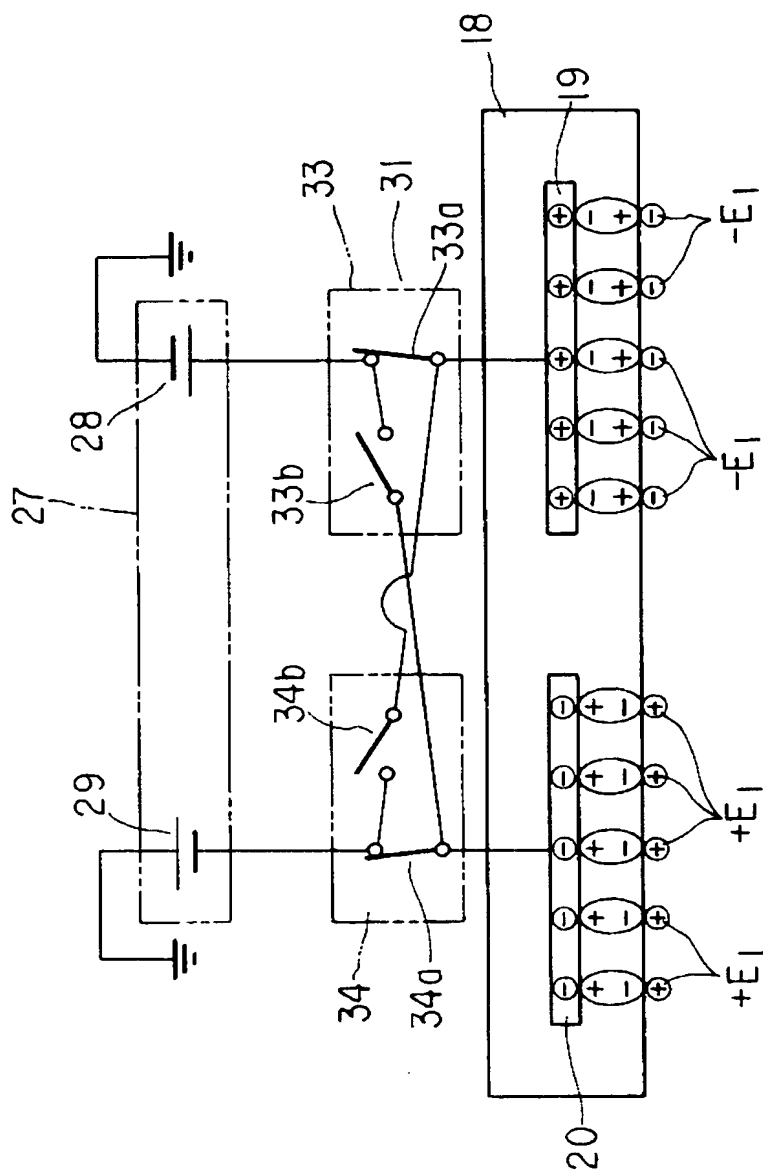
【図 1】



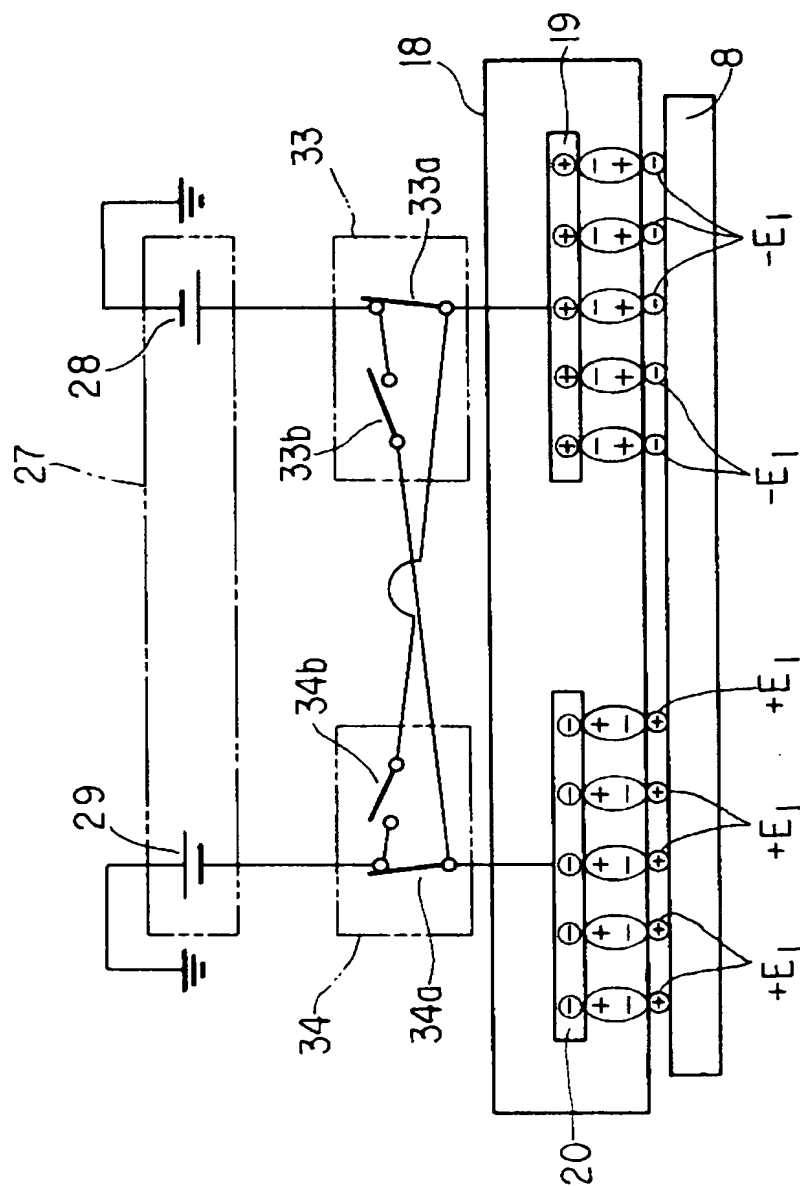
【図 2】



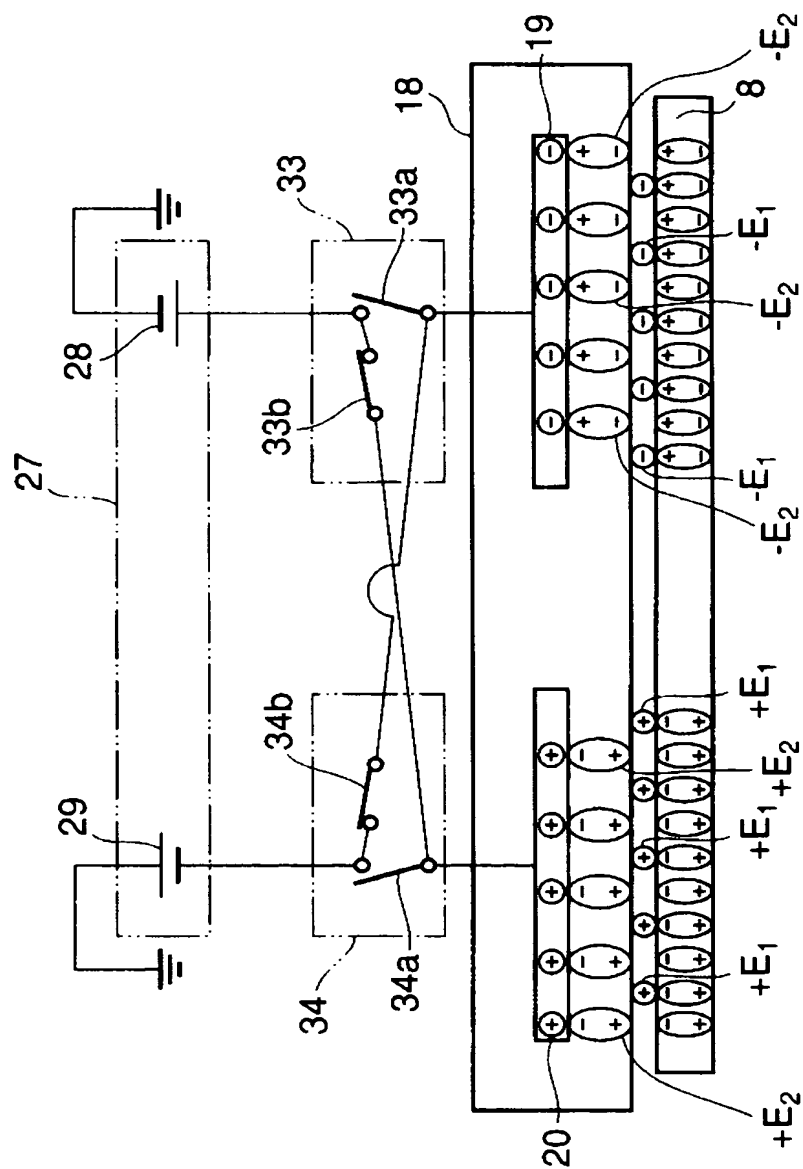
【図 3】



【図 4】



【図 5】






【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 この発明は基板を吸着保持する静電気力を増大させることができるようにした静電吸着方法を提供することにある。

【解決手段】 誘電体からなるテーブルに設けられた電極に直流電圧を印加し、それによって発生する静電気力で上記テーブルの保持面に基板を吸着保持する静電吸着方法において、電極に所定の極性の電圧を印加して保持面に電極に印加された極性と異なる極性の電荷を帯電させる第1の工程と、保持面に基板を接触させて保持し保持面に帯電した電荷の消失を阻止する第2の工程と、保持面に基板を接触させた状態で電極に第1の工程で印加した極性と異なる極性の電圧を印加しテーブルの保持面に第1の工程で保持面に帯電させた電荷と同じ極性の電荷を生じさせ、この電荷と第1の工程で保持面に帯電させた電荷とで基板を吸着保持する第3の工程とを具備する。

【選択図】 図5



特願 2 0 0 3 - 1 7 6 6 0 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 4 2 8]

1. 変更年月日

2 0 0 0 年 1 0 月 2 3 日

[変更理由]

住所変更

住 所

神奈川県横浜市栄区笠間 2 丁目 5 番 1 号

氏 名

芝浦メカトロニクス株式会社